

# 年間を通して仕事を学ぶ

～みかん園で働くことを通して～

教科領域 総合的な学習の時間

周防大島町立情島中学校 2 学年

## キャリア教育の観点

職場体験学習を通して、将来の職業や社会の一員としての自分の役割について考え、今の自分の在り方を振り返る活動です。具体的なねらいは以下の3つです。

- ① 自分のすべきことについて、嫌なことやきついことも粘り強く取り組む気持ちをもつ。
- ② わからない時にどうしたらよいか聞くことができる技術を身に付ける。
- ③ お世話になる人と適切な会話ができる技術を身に付ける。

【人間関係形成・社会形成能力】【キャリアプランニング能力】

## 実施計画

1ヶ月に1回、(6～12月、計7回) みかん園に行き、みかんの栽培を体験する。生徒には一人ひとりに、みかんの木を2～4本程担当させて、責任をもって育てさせる。

定期的に体験活動を行うことで、①みかん栽培における、時期によって異なる様々な作業を体験できる。また、その必要性を理解する。②みかんを1シーズンにわたって育てることで、責任感を養い、達成感を味わうことができる。③長い時間を通して活動することで、仕事に粘り強く取り組む態度を養うことができる。などの利点がある。

### ○全体流れ

- ・事前指導 1時間
- ・みかん園体験 7回  
(月1回 6～12月)
- ・事後指導 1時間
- ・お礼状 毎月2名
- ・発表 中間発表 10月  
最終発表 12月

## 事前指導

体験学習の前に1時間、事前指導を行った。今回の体験学習に、体験学習を通して身に付けさせたい3つの力を生徒自身が理解して、取り組んで欲しいからである。内容は「仕事」をテーマに、「働くことはつらいことであり、今の自分の生活やつらいこと・くるしいことを乗り越えていくことが将来、仕事をする事への資質となる。」ということ伝える授業であった。そのことを踏まえた上で、みかん園への体験内容を説明しこの体験を乗り越えたときの自分たちの成長した姿をイメージさせることで、体験活動の目標をより明確にしていく。

## 一日の流れ

- (1) 7時40分 学校前集合 8時5分便にて伊保田港へ  
車にて体験先のみかん園の指導者宅へ移動
- (2) みかん園の指導者宅より、徒歩にてみかん園へ(約20～30分)
- (3) 作業～昼食～作業
- (4) 徒歩にてみかん園の指導者宅へ(15時20分着)  
車にて伊保田港へ移動
- (5) 16時5分便にて、情島港へ 16時40分 学校帰校 解散

## 作業内容

基本的に1時間～1時間半、作業をして休憩をとるように設定する。作業としては、草抜き、腐葉土（落ち葉）集め、腐葉土撒き、支え、摘果、水やり、イノシシ対策の竹準備など、みかん栽培に関する専門的な作業を体験した。



○草抜き

○腐葉土集め

○腐葉土撒き

○摘果



○イノシシ対策の竹準備

生徒たちは最初は集中して作業に取り組むが、「早く作業を終わらせて早く休みたい」という思いをもつ者も数名見られ、1時間もすれば作業に身が入らなくなる者もいる。その原因として、集中力が持続しない、先が見えず見通しがつかない、責任感が育っていない、などの要因があがる。しかしながら、4回の体験を終えて、作業の見通しがつくようになってきたのか、作業開始から休憩まで、一定の集中力で作業ができるようになった。また、自分の担当の木を手入れする作業が増えるにつれ、自分の担当の木に対する責任感が芽生えたのかもしれない。

## 振り返り・礼状

体験後にプリントで振り返りをするようにした。項目は作業内容・学んだこと・感想の3項目。また、毎月2名の生徒が礼状を作成して体験先に送る。

このような2つの取組を通して、文章を書くことに慣れることを目標にした。振り返りでは、感想だけでなく、「何をして、何を学んだか」を具体的に書けるように指導した。礼状の作成では、お世話になった人に対する手紙の書き方を体験することが今後の人生に生かされると考え、取り組んでいる。

| ① | 作業内容 | 感想・学んだこと |
|---|------|----------|
| 月 |      |          |
|   |      |          |
| 日 |      |          |
|   |      |          |
|   |      |          |
|   |      |          |
|   |      |          |
|   |      |          |

## 発表

文化祭でクラスの2名が職場体験中間発表という題目で発表を行う。技術の時間に各項目（取組の意義、目標、日程、作業内容、専門的な知識、学んだこと、まとめなど）で役割を決めて、パワーポイントを作成させた。このことにより、生徒たちは自分たちの活動をさらに深く振り返ることができた。

### 蜜のついた蜜柑

- これらは蜜のついた蜜柑の写真です
- これらの蜜柑はすべて処分します。



### 次への課題

- 今よりてきぱき動き、作業がはかどるようにする。
- 傷物のみかんの見分けがつかないようにする。
- 松井さんに礼儀正しく、いろいろ質問するようにする。
- 不平不満を最初言っていたが、言わなくなったので続ける。



### 体験内容

- ・みかんの栽培に関わる一連の作業を体験する。(6月から12月まで。月一回の体験作業を実施)
- ・毎月体験が終わるたびに2名の生徒がお礼状を書いていきます。
- 手紙の書き方も含め学んでいます。

それから、自分たち個人で、毎月仕事内容や感想などプリントにまとめています。

## 考察・課題

まず、大きく変わったのは、体力が向上したことである。みかん園までは山をひたすら登らないといけない。1回目は30分～40分かかったが、今では15分程度で登り切る。作業も継続して長い時間活動できるようになった。

次に3つの目標の「嫌なことやきついことにも粘り強く取り組む気持ちをもつ」についてである。今回の活動の内容を説明したとき、生徒たちは真っ先に「イヤだ」「例年どおりが良かった」など、さっそく不平不満を言い出した。やはり、今回の活動の目標は今の生徒に必要な資質だと思った。1回目の体験ではやはり「疲れた」「きつい」などの弱音が出てしまっていたが、意識的に弱音を言わないようにと指導したところ、徐々に「不平不満」が減少していった。

次に「わからない時にどうしたらよいか聞くことができる技術を身に付ける。」について振り返ると、最初のころは分からないことは教員に聞いていたが、現在では指導者の方に質問するようになった。違う観点から見ると、みかん栽培に対して本当に興味がわいてきたのではないかと考える。なぜなら、生徒たちが行っている作業には直接関係ないみかんに対する疑問を質問することが増えたからである。これは、1年間通して体験することの利点が活かされているように思う。

最後に「お世話になる人と適切な会話ができる技術を身に付ける。」についてである。生徒たちは指導者の方に対して質問の回数も増え、礼儀を問われる機会が増えてきた。そのなかで、生徒たちは失礼のない態度を意識して会話をしているように感じる。

活動を通して、生徒たちは「仕事の大変さ」を学ぶことができた。現在はその困難をのり越える精神力と体力を養う最中にある。また、社会人として必要なコミュニケーションも、意識的にではなく、当たり前になるようになることを期待する。

また、「仕事」ということを体験することで、生徒たち今後の進路や就職について、一人ひとりの考えるきっかけになるような声かけをしていきたい。